

樂亭西馬録
一雄齋國輝画

下



弓張月十五
編

へ 13
3693
30

小題曲三國志



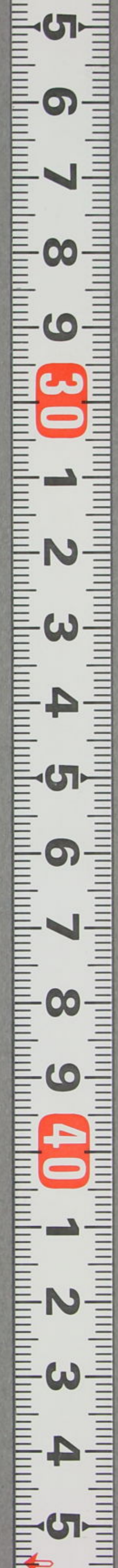
發行記

へ 13
3693
29



へ 13
3693
29

發行記



う張月

拾五篇

如上

美西

雷

紫

錦昇堂梓



樂亭西馬録

一雄齋國輝画

不視唐山の夢合せ近松翁が國性爺竹田出雲が三国志波濤万里を闊ても
 五常の道に趣ある其舊文に比ぶれば遼小勇義と鶴の加護う張月と
 題せし蓑笠大入が古今に妙案御曹子為朝公二期の談説しを將神國に
 附屬せる琉球の世界と綴らる善惡邪正色欲生いのの常なる夫是の面白
 く著述せし錦昇書肆にキアレと裨史小工齋で前に初輯と發行せしと
 製本の運び風走車廻るごとく招羽翁の進退も如く因茲編と嗣更頻あれバ
 既ふ十五集に至る此巻より再出爲朝小琉球小顯も寧王女が必死に救ひ白縫姫
 の衣服に纏ひ白縫王女と名のり夜の赤繩も縁深き雨と雲との照降町千里も走
 寅は秋梓行あらう猶殘編來卯年鐫彫と急が無程満尾せん事と希ふ可已

重三

嘉永七年寅秋發市今乙卯新販

樂亭西馬誌



五月十五日

鎮西八郎
源為朝



○蒙雲妖術
鬼頭
禍の
悪獸

英勇
の
あめ
つめ
み
踏
印
う
け
く

ゆ
き
せ
み

せ
み

樂
多

妖賊
蒙雲
自稱
法王と号す

○中城寧王女
飯小御曹子の妻
と唱へ白縫王女
とす



五月十五日





寧王女

查國吉



王

五十五

七

なまねえ人もあつた世
 そまのバカも
 たぬきも
 且どあや
 すくのう
 あふあふい
 むんぐさ
 あらあられ
 らるゝあらそ
 ぶくえ
 のやろあ
 ままめ
 すまらち
 さりあ
 なるころ
 又ふさす
 せめふ
 のがえ
 やとて

た



查國吉

[illegible]

卷之三



うゑえのけらねてのうめさ
 めやうのりぬのをたぢうと
 兄をまづとひて元とてきこ
 川のやちふあむれすへんを
 まゐるとちうとあやせのか
 まとるわかふのとあやられ
 なうゑあまたあそびあはれ
 の子と入あらうとさうぞ
 さうくとあやれなあひ
 おうのあうとあはれいふさ
 うあひのあうとあやせとあ
 まじいといふとあやせとあ
 うちどおとあはれのあひ
 そつあはれとあやせ
 そと甘んともあやせ

日ごころ

〇ちてくがうれる日あそびさき
 まるるうけををなすてからう
 上りてくがうれる日あそびさき

一のやふち
 二のやふち
 三のやふち
 四のやふち
 五のやふち
 六のやふち
 七のやふち
 八のやふち
 九のやふち
 十のやふち
 十一のやふち
 十二のやふち
 十三のやふち
 十四のやふち
 十五のやふち
 十六のやふち
 十七のやふち
 十八のやふち
 十九のやふち
 二十のやふち
 二十一のやふち
 二十二のやふち
 二十三のやふち
 二十四のやふち
 二十五のやふち
 二十六のやふち
 二十七のやふち
 二十八のやふち
 二十九のやふち
 三十のやふち
 三十一のやふち
 三十二のやふち
 三十三のやふち
 三十四のやふち
 三十五のやふち
 三十六のやふち
 三十七のやふち
 三十八のやふち
 三十九のやふち
 四十のやふち
 四十一のやふち
 四十二のやふち
 四十三のやふち
 四十四のやふち
 四十五のやふち
 四十六のやふち
 四十七のやふち
 四十八のやふち
 四十九のやふち
 五十のやふち
 五十一のやふち
 五十二のやふち
 五十三のやふち
 五十四のやふち
 五十五のやふち
 五十六のやふち
 五十七のやふち
 五十八のやふち
 五十九のやふち
 六十のやふち
 六十一のやふち
 六十二のやふち
 六十三のやふち
 六十四のやふち
 六十五のやふち
 六十六のやふち
 六十七のやふち
 六十八のやふち
 六十九のやふち
 七十のやふち
 七十一のやふち
 七十二のやふち
 七十三のやふち
 七十四のやふち
 七十五のやふち
 七十六のやふち
 七十七のやふち
 七十八のやふち
 七十九のやふち
 八十のやふち
 八十一のやふち
 八十二のやふち
 八十三のやふち
 八十四のやふち
 八十五のやふち
 八十六のやふち
 八十七のやふち
 八十八のやふち
 八十九のやふち
 九十のやふち
 九十一のやふち
 九十二のやふち
 九十三のやふち
 九十四のやふち
 九十五のやふち
 九十六のやふち
 九十七のやふち
 九十八のやふち
 九十九のやふち
 百のやふち



寧王女

おきまをけかこ
みなりみてぐらそ
まうてそのれいげ
ゆちとるさう
へまのあぢ
みなごき
つん女あらう
しくかごふ
おもたかのひ
いのりあるつひ
ひさの心をうして
さめりくわいの
べーはさう
まろ死ぢめた
よいつとあづバ
れつん女のきえ
とぞやりとせと
きつん女のおんがむ
のあくふかぎく
いふときありと
つまじう小き
く兄とよめるやう
みるもなぬあつ
ふまかこそ見
ろふわりてひ
るがゆるりて
をまろおけき
世としてき
らん女のき



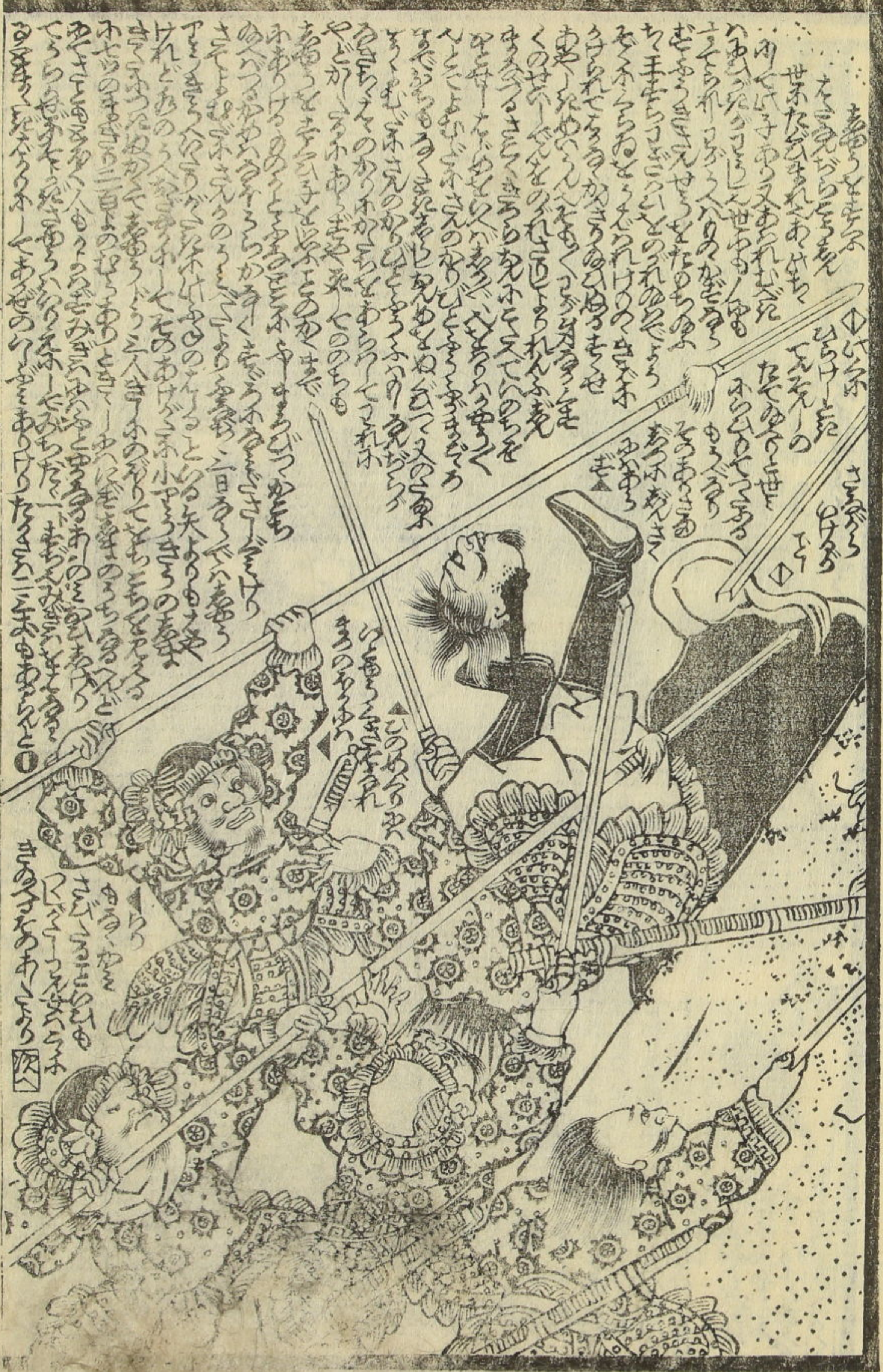
下はのろろをさしてあふ
ゆるあきしるるる
ま



寧王女

そのまじり
つるまじり
そのまじり

下はのろろをさしてあふ
ゆるあきしるるる
ま



世はのろろをさしてあふ
ゆるあきしるるる
ま

下はのろろをさしてあふ
ゆるあきしるるる
ま

嘉永八年乙卯新春彫目録

全地本草紙問屋より町笑壽屋庄七版

聖德太子
大和鏡
万亭應賀作
一壽齊國貞画

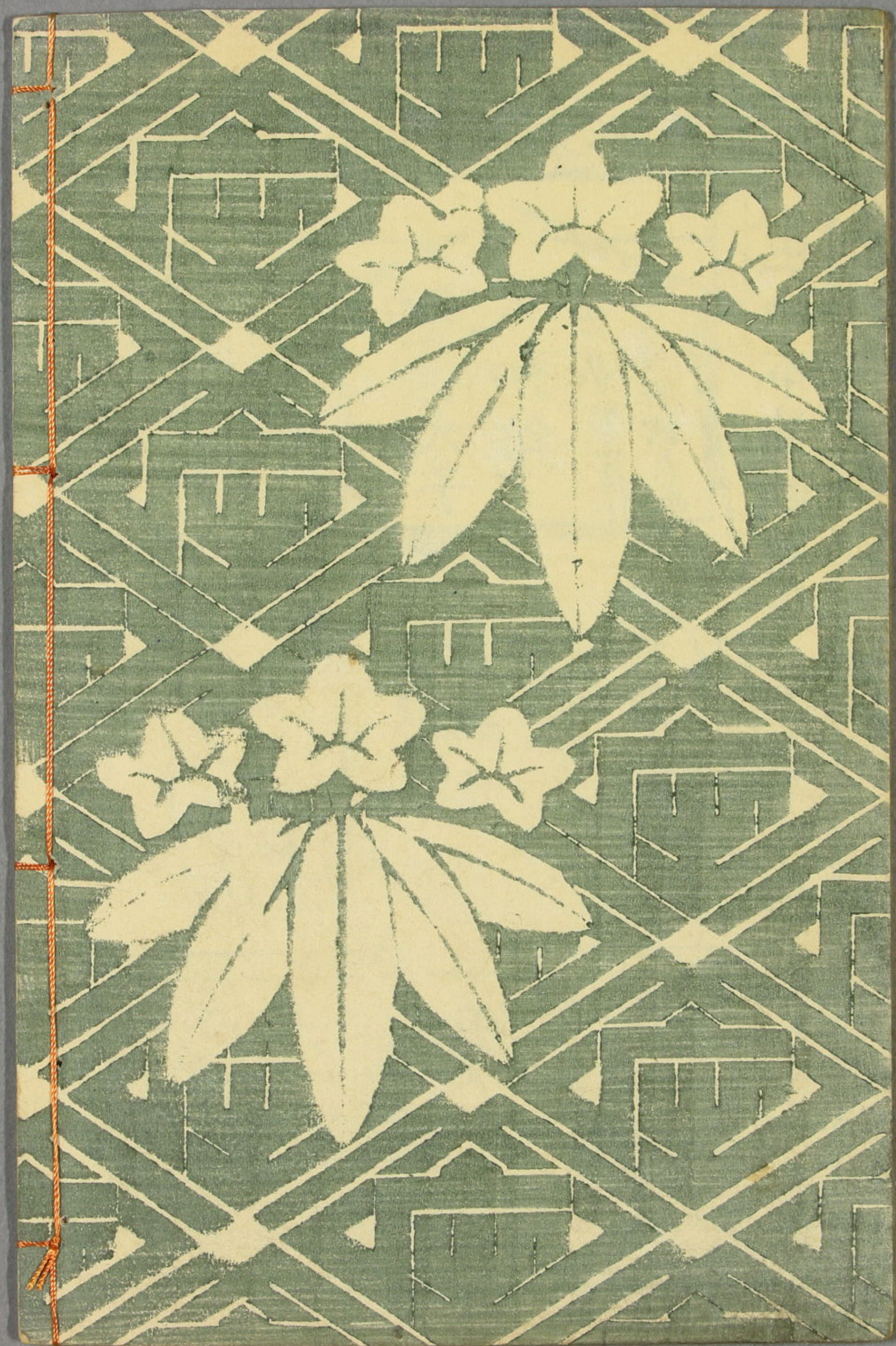
三鱗形
鎌倉双吊
西馬作
國輝畫

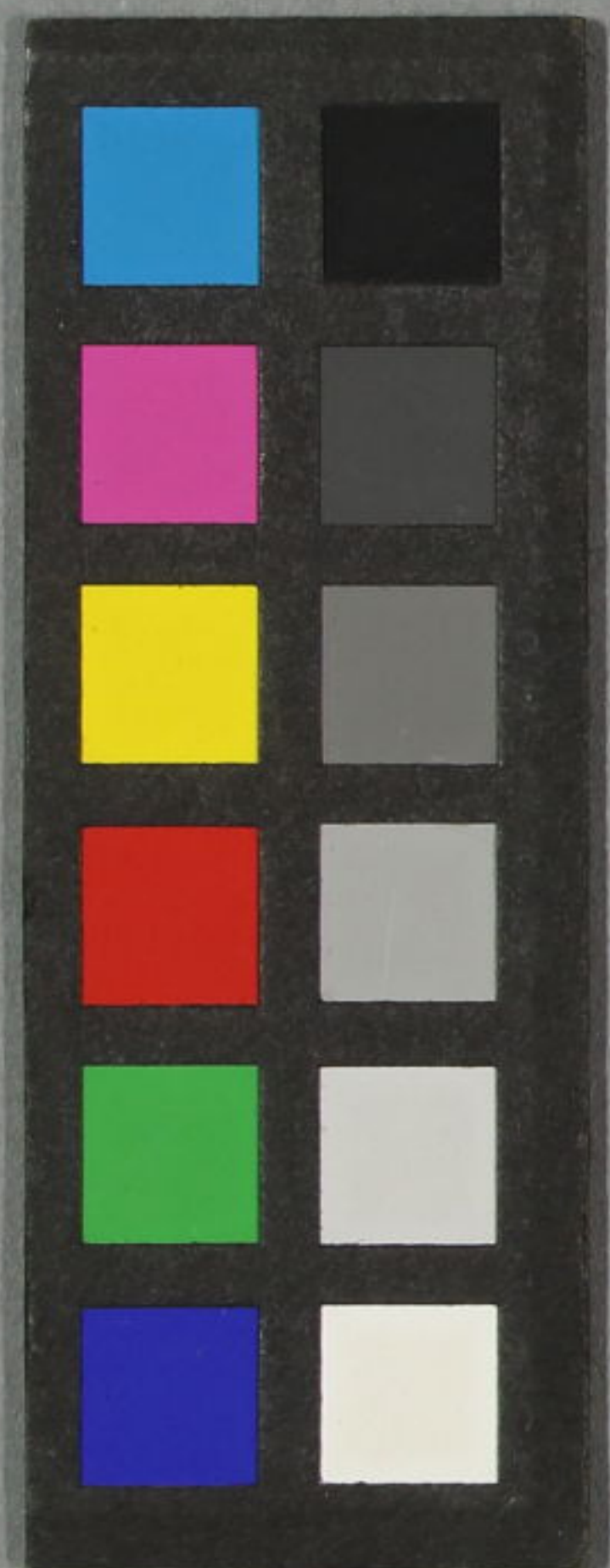
雲龍九郎偷傳
故入三馬遺稿
増補西馬案
画工一勇齋

竹雀千代咲
西馬補案
國輝画圖

西馬譯文 國輝圖





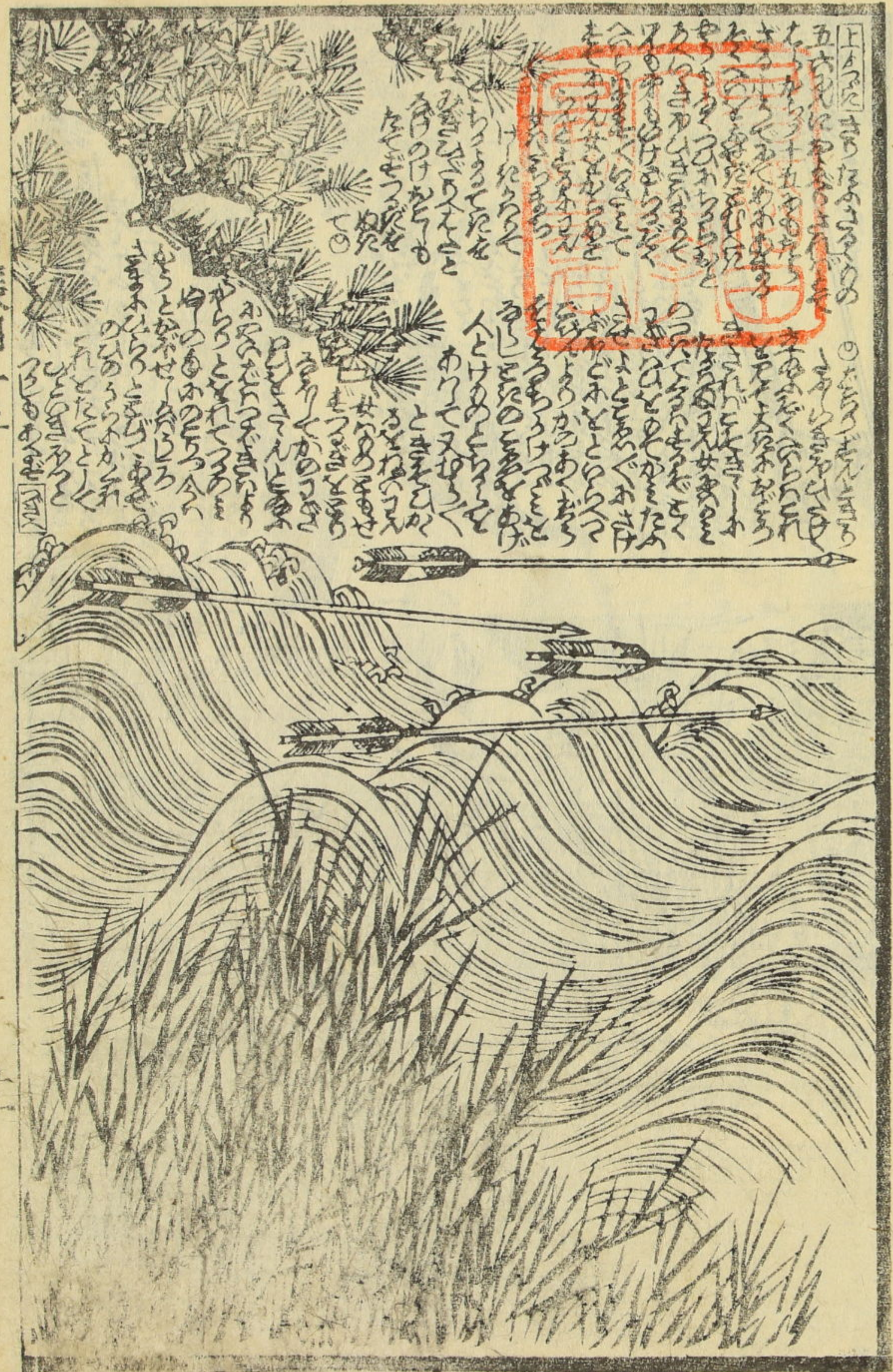
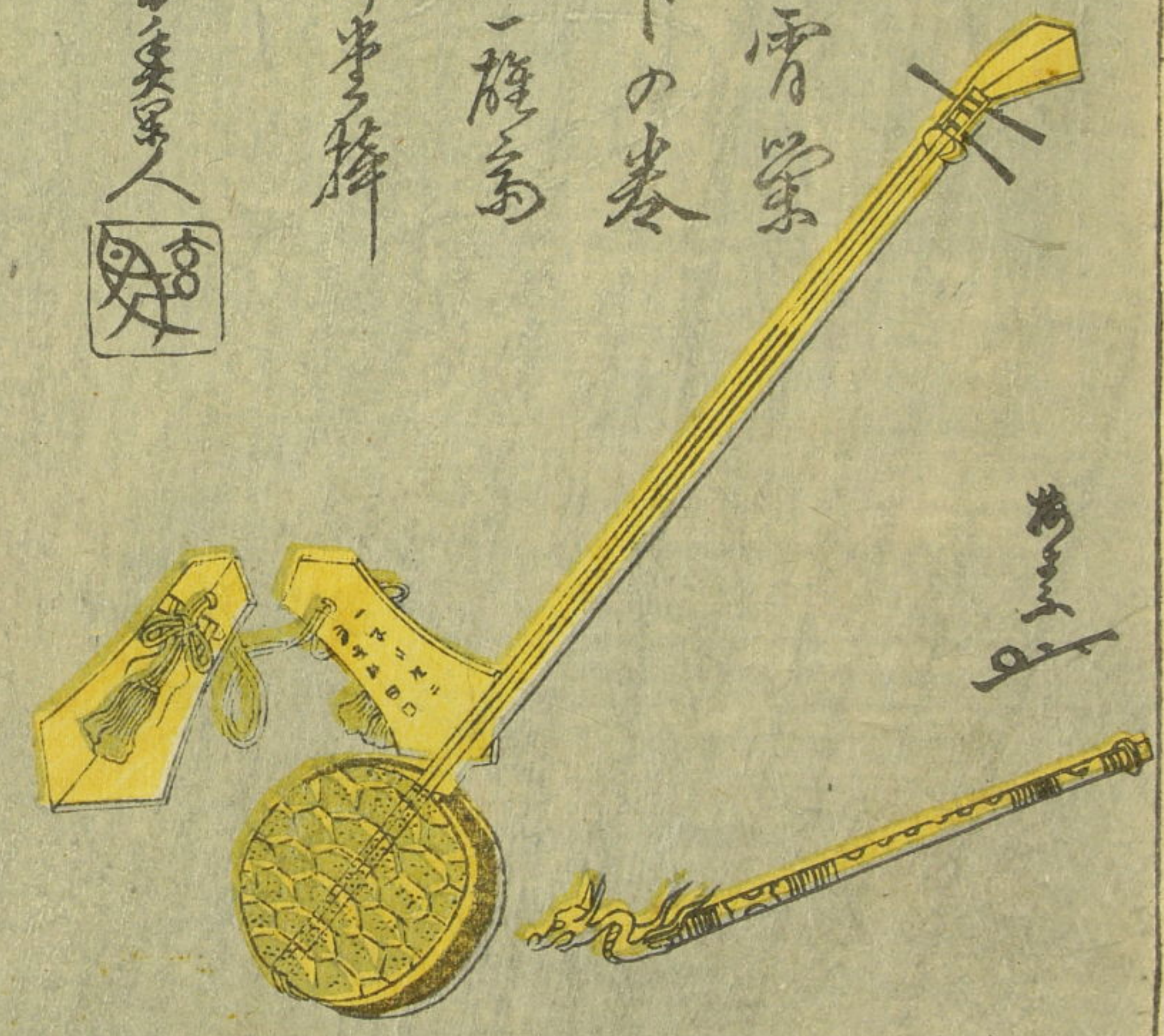


門 へ 13
 3693
 30

(乙卯)

弓張月春宵樂
 第十卷下の巻
 樂亭西馬録一巻
 國輝書院昇中書院

三才人

三才人

あんなさうぢ
きつるされへなぐさ
うれはこころちりやうごもふ
けうこれひらゆふもく死をぞく
いまだるゝほきまゐるるわきのい
てんたいとれしたそ二万七千八百三
ねの今ふのさまでなつちうどう
おもをさかたでぎざぬがぬのも
あつちいおれりてふい
ひとおあ
むろ

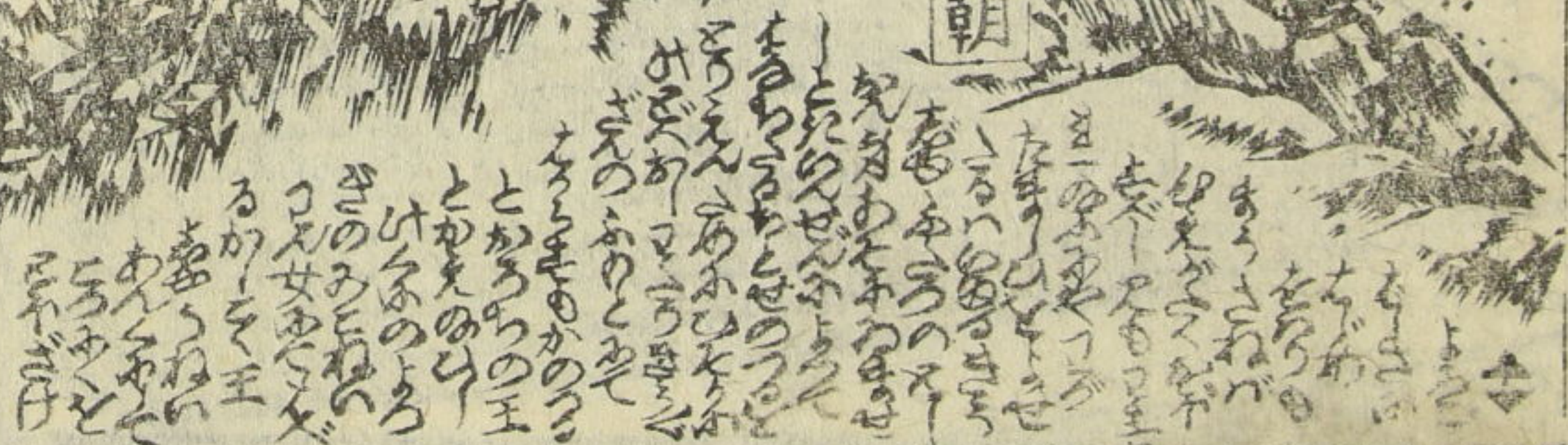
あうだるき

[illegible]

▲まが
 矢の三
 見をい
 まやふ
 ろりひく
 られを
 ぞへら
 せんわ
 ころも
 るたを
 せむれ
 せむれ



ちやうとさうであつた
 とあれはうゝあめなり
 つき女のやうなあめ
 まあるこれへこれのさる
 んでせうてんつう、あめ
 のさうめんちんあふさう
 みなのこのよりつきの
 すのハるちんあふさう
 えんせいのゆえにこれを



こそわをぢさしとよびかるといふは又あらぬの
 つてなぐもてさうさうられずもあらそひのそぐくをせ
 ろんとまればの下のあられたゆもふ
 とちぎうちぎのふたねさきとふにあらわ
 れどかめつけつまるゝぬあてひと
 るとよぢともふくたぬもあな
 うちまのつてのふたにともるけりこえ女の
 央てちやとよみのさそひためとの
 まはさふさうなてたまるさう
 とみぬふこのめともあらぬ
 さればあやとぬふ

のそふあつ
とて大ききあ
なれどやせ
ともたすうい
ひまゝにあらは
なするまゝ

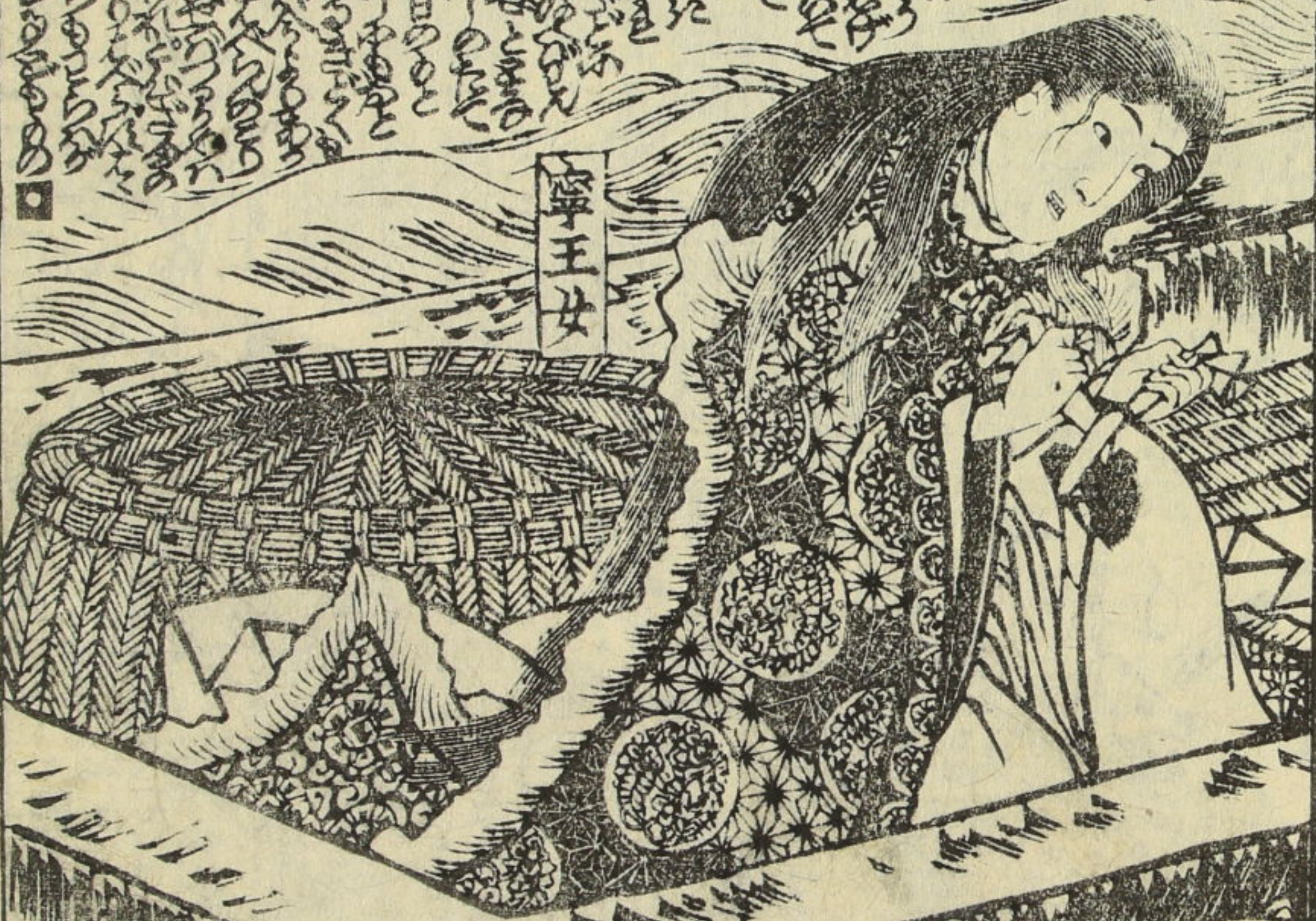
あつち
うまのいぬ
おろれさずり
いふうなる
ひあうわ
つとらう
うまう
うま
おと
あつち
うまの
のわけ
人の羽を
うてつうる
おろれさずり
うてつうる

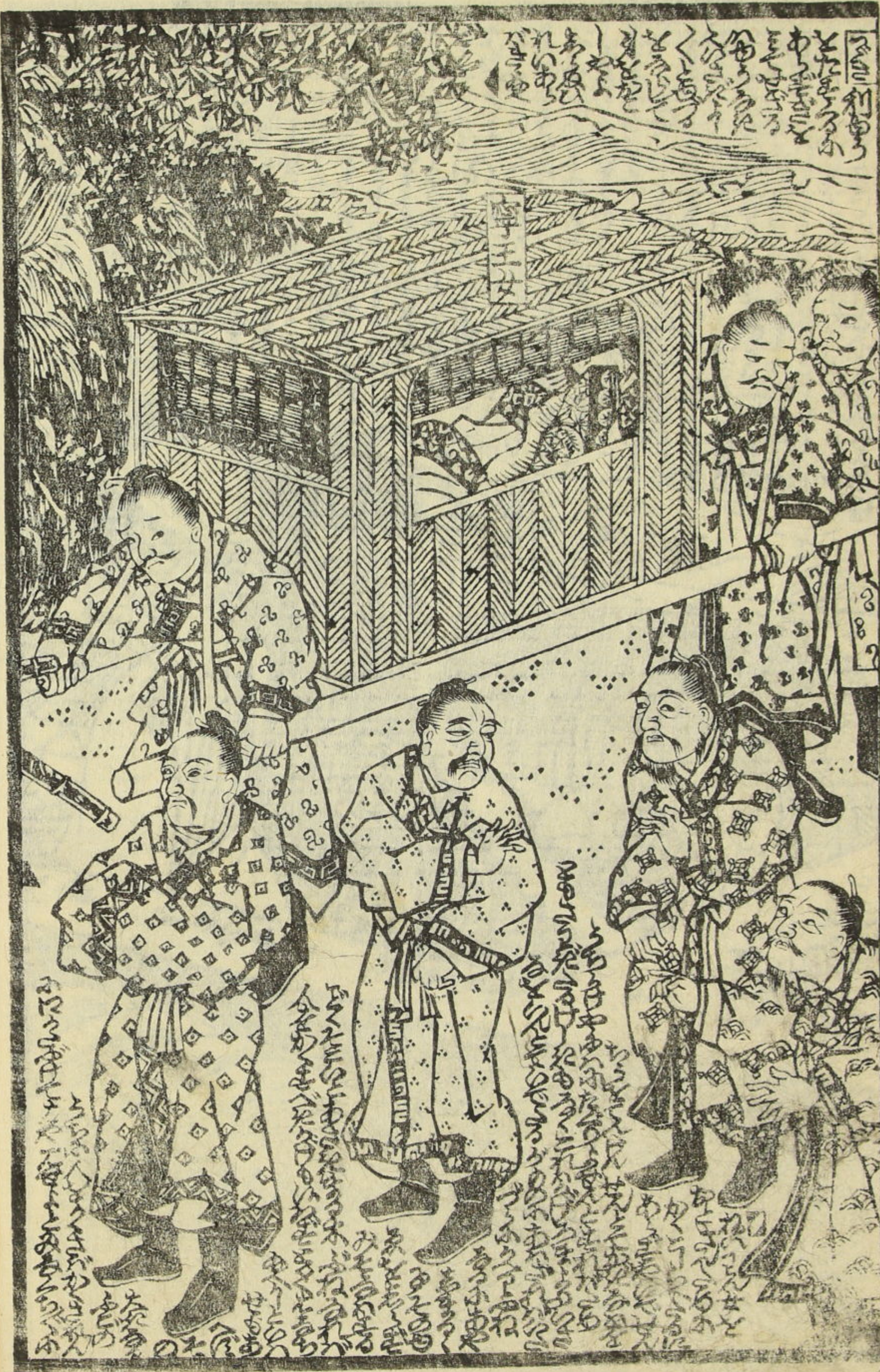
今よりいへる
 大老利やうが奴等
 なるれどもつ西なう
 せむこれまこと
 ゐのうらぐげん
 しぬふきさ
 されてアキコ
 お母のうらぐ
 てのとにふを
 せむいれん
 とくじつん女さ
 かひとてふも
 やふみのうは
 づつてくまづ
 こめくらみるば
 あかしのちを
 こころるあま
 はあうのかり
 つえ女のまふ
 まるくとしと
 けふふつてう



[illegible]

[The page features a large, detailed illustration of a landscape with rolling hills or mountains under a sky filled with stylized clouds. The drawing is executed in dark ink. Below the illustration, there are several columns of handwritten text in a cursive script, likely from a historical manuscript.]

[illegible][illegible]



[illegible]

白縫王女

[illegible]



いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに

王女



いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに
いふはうのこゝろにあらはれし
かたがはふたふたのこゝろに

為朝

